

水俣病の原因は廃液

厚生省の 見解原文

企業の責任を明示

救済制度を早急に確立

厚生省は二十日、水俣病の原因について正式見解を発表するが、同日厚相が、東京事務所から県に入った連絡によつて同省の見解の原文はこれまでの最大研究班の研究結果を全面的に支持したものである。

原文の中で同省は水俣病の原因について「水俣町の魚介類を長期に亘り採取することによって起るもの」とし、さらに「魚介類を汚染したのはチソ水俣工場のアセチルアセチル工場から排出されたメチル水銀化合物である」として企業の責任を明示している。また今後の措置として厚生省見解の中では「公害医療研究補助金を従来通り支出するほか、新たに水俣市側の児リハビリテーションセンターで医療研究を実施する」環境汚染防止対策として毎年県、水俣市、旭大と協力して水俣病の調査報告を実施する、公害の紛争処理と被害救済制度を早急に確立することなどが述べられている。

断を下した園田厚相の「執念」

みなぎる公害への闘志

人間本位の政治と取組む

ある日突然、胸を刺される、手
足がしびれ、目も見えず、口もき
けなくなる。世界でも例がないこ
の奇病が、水俣市一帯に発生した。

「この世に生をうけながら、意
識を失ったまま、生ける人形と
してベッドに横たわる子供、肉親
がねこつ言い続けてきた。」

「この世に生をうけながら、意
識を失ったまま、生ける人形と
してベッドに横たわる子供、肉親
がねこつ言い続けてきた。」

ある日突然、胸を刺される、手
足がしびれ、目も見えず、口もき
けなくなる。世界でも例がないこ
の奇病が、水俣市一帯に発生した。
十五年、殺人事件でも時効が完成
する長い年月のすえ、きょう二十

ある日突然、胸を刺される、手
足がしびれ、目も見えず、口もき
けなくなる。世界でも例がないこ
の奇病が、水俣市一帯に発生した。

ある日突然、胸を刺される、手
足がしびれ、目も見えず、口もき
けなくなる。世界でも例がないこ
の奇病が、水俣市一帯に発生した。

さんで水俣と向かい合ふ事だ。
昭和三十四年、水俣病が未解決の
まま迎えた暑い夏のこと。園田さ
んにはいまでも忘れられない。



湯の児リハビリセンターに水俣病患者を見舞い、職員
と患者に見送られて同院を出る園田厚相（9月22日）

「当時、水俣市はちろん、不
知火海に面した地獄の漁民の生活
はどん底でしたよ。船や漁具を売
り、借りられるだけは借り尽くし
てしまい、失対人夫にありつての
はよほど運のいい人だった。せつ
かく遠くへ出かけてとった魚で
も、魚市場では買ってくれなかつ
た。患者の家族、漁民、魚屋など

の街頭デモが連日続き、わたしの
故郷の天草からも、健康を、いの
ちを、援助を返してくれ」と叫び
ながら工場に押し付けて行きまし

た目をしぼたなきながら、きのう
のことのように園田さんには話す。
「お力みちゅうさんは、わしら
しもじもについてくれるもんじゃ

なか」といった天草の老漁民のことだが、いまも耳に響いているともいう。

「元落下さん部隊長」 熱血

漢」根っからの九州男子」一国会館でも血の気の多い方では人後に落ちない園田さんは、そうした地元零細漁民たちのいぶきのなかで「公害への闘争」を燃え上げさせていったのだろう。

こんな園田さんの姿勢に「選挙向けのポーズ」「河野一朗氏なきあとの『園田師匠』結成の捨て石」といった陰口をたたく人もいる。

だが園田さんはいう。「わたしだって代議士だから、そりゃあ『お国入り』にみやげを持って帰りたい。だが、あの胎児性水俣病の子供たちを見てごらんなさい。

『生ける人形』といわれ、ベッドに寝たきりの小さな生命を見てごらんなさい。公害を選挙に利用するなんてことができずか。園田はそんな男じゃありませんぞ』一キツとした表情。

「これまで公害問題は通産行政の一環として扱われてきた。これは企業中心のもので、公害はたまたま派生した問題にすぎなかつた。企業の繁栄が人間に幸福をもたらすものならば、人間を不幸にする企業の繁栄はあってはならん」という信念で、これからも人間本位の政治と取り組むという。